

事業の背景・概要

- 市全体の被害金額のうちサルの被害は約4割を占めている。
- 毎年、果樹を中心にサルによる農作物被害が頻発しており、農家の生産意欲の低下が問題となっている。
- この状況を踏まえ、花火などによる追い払いや囲い罠の設置など、複合的に対策を実施し、被害の軽減を図っている。
- この対策は、平成26年度より補助金を活用している。

取組内容

1 生息状況調査を踏まえた追い払い、囲い罠の設置

生息状況調査を踏まえた対策

- ①市の会計年度職員（猟友会会員）2名による追い払い活動を実施
⇒ パトロール車リース代・ガソリン代に補助金（被害防除）を充当
- ②各地区及び猟友会と協議の上、市内5箇所（設置箇所は、農地から農地への通り道、日当たりの良い場所等）に囲い罠を設置・捕獲
⇒ 囲い罠の購入費^{※1}、捕獲活動経費^{※2}に補助金（※1サル複合対策、※2緊急捕獲）を充当



（追い払い用火火）



（囲い罠）



（囲い罠）

2 GPS機器を活用（群れ分布の調査）

- ・GPS機器の活用により、群れの生息分布、行動パターンを把握し、1の活動の効率化を図る。
- ⇒ GPS機器の購入費に補助金（サル複合対策）を充当



鳥獣害対策をまとめた市民向けの冊子に、群れ分布調査結果をもとにしたマップを作成

成果

○ 複合対策によるサルの被害の減少

- ・継続的に追い払い活動を実施し、サルを農地・住宅地から遠ざけたことで、群れの出現頻度が低下している。
- ・加害レベルの高い群れに対して、サルの行動域等を考慮した適切な位置に囲い罠を設置することにより捕獲数が増加し、地域によっては直近5年間で被害が約9割減少した。

○ GPS機器の導入による効果的な被害防止対策

- ・GPS機器を活用することで、サルの行動パターンを把握することが可能となり、被害防除にあつては、被害の予想される地域に先回りして追い払い活動を実施。捕獲活動にあつては、より適切な囲い罠の設置と捕獲活動の実施等、効果的な被害防止対策に繋がっている。